

# 輸出事業計画

※申請者名：一般社団法人日本豆腐協会

品目：豆腐、油揚げ類

## 1. 輸出における現状と課題

### 【現状】

- ・国内市場は縮小傾向で、会員企業の経営基盤強化に海外販路拡大が急務。
- ・豆腐の輸出額は2017年約3.2億円→2025年約11.8億円（前年比+38.6%）、輸出量は約3.9倍（財務省貿易統計 HS2106.90-200）。
- ・令和8年5月 THAIFEX（バンコク）・6月 Summer Fancy Food Show（米国）を視察し、現地ニーズ・要求スペックを確認。

### 【課題】

- ・〔製造〕バイヤー要求の賞味期限8～10ヶ月（米国常温は18ヶ月）に国内スペックでは対応困難＝ロングライフ化。
- ・〔加工〕輸出先の用途・味覚に合わせた商品仕様の加工対応。
- ・〔物流〕個社混載で現地価格が3～4倍。共同コンテナ化による輸送コスト削減が鍵。
- ・〔販売〕中小の会員単独では規制対応・商談が困難。当面はHoReCa業務用チャネルを主戦場に。また、食べ方が浸透していないため商品の陳列のみでは販売が停滞。
- ・〔実績把握〕油揚げ類は貿易統計の残余分類に入り、品目別の把握が困難。

## 2. 輸出事業計画の取組内容

- ・輸出部会を設置し、バイヤー・規制・物流情報を協会が一元集約し、会員企業の輸出を中間支援する。
- ・**市場調査・現地視察**：令和8年度にタイ（THAIFEX-Anuga Asia 2026）等の展示会やタイ現地市場を視察し、現地の需要・規制・要求スペック・バイヤーを調査。
- ・**展示会出展の調査・検討**：令和9年度以降のTHAIFEX等への共同出展（会員複数社）に向け、出展枠・費用・実施体制を調査・準備する。
- ・リードタイムに応じた二段構えの商品戦略（アジア＝冷凍・チルド変換品／欧米＝常温ロングライフ品）を会員間で共有し、賞味期限延長の技術動向を共有する。
- ・複数会員の商品を集約する共同コンテナ輸送の枠組みを事務局主導で構築する（令和8年度中に方向性）。
- ・タイFDA・ハラール等の輸出先国別の規制・認証情報を収集し会員へ提供。THAIFEXで接触したインポーター候補のバイヤーリストを整備する。
- ・油揚げ類を把握できる貿易統計細分の整備に向け農林水産省へ働きかけ、会員企業の輸出実績を自主集計する。

## 3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



## 4. 輸出目標額

|         | 現状（令和7年度）                | 目標（令和11年度）                      |
|---------|--------------------------|---------------------------------|
| 輸出額（千円） | 283,000                  | 419,800                         |
| 輸出量（kg） | 822,000                  | 1,219,000                       |
| 輸出先国    | 香港・台湾・米国・タイ・マレーシア・シンガポール | 香港・台湾・米国・タイ・マレーシア・シンガポール・英国・ドイツ |